



古石

コロナ2回接種壁越え完遂する

2回接種「壁」越え完遂

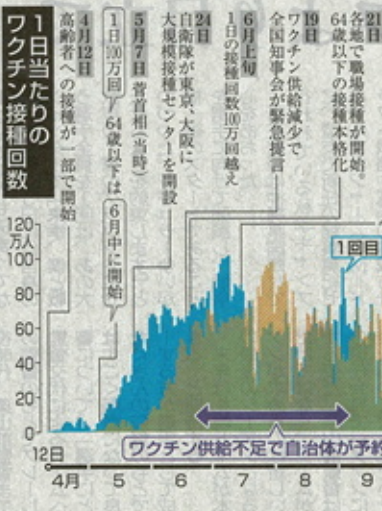
新型コロナウイルス対策の切り札とされたワクチン2回接種は11月中にはほぼ完了する見通しとなった。1日100万回という政府目標が掛かる中、事業の中心を担った自治体、予約混雑や供給不足、変異株の猛威といった「壁」を乗り越え、前例のない国家プロジェクトを向かい、完遂へ導いた。ただ、来月から始まる3回目接種で再び混雑が起きないか、懸念も残る。

変異株猛威 供給不足 予約殺到

自治体でも「コールセンターに何度 電話してもつながらない」「サイ トにアクセスが集中してつながら ない」といった事態が相次いだ。 そんな中、注目を集めたのが福 体が64歳以下への接種をようやく

最初の大きな壁は接種予約だった。インターネット、電話、窓口の三つを設けた高知市は、高齢者接種の予約でシステムがパンク。約10万人に一度に接種券を配り、申し込みが殺到した。

1日当たりの ワクチン接種回数



3回目 混乱の再来懸念も

当初政府は重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある人を優先したが、途中から「リードアップを狙って方針転換。自治体事業も加え、企業や大学単位の実施も容認し、自治体による大規模接種センターでの対象者を64歳以下にも広げた。自治体も効率化を求められ、利便性が高く集客力もある商業施設の活用が広がり、自治体大手「イオン」企業市は自治体の依頼で30都道府県61施設を集団接種会場として提供。2施設を活用した旭川市の担当者は「イオン会場は予約が埋まるのが早く、現役世代の接種も後押しした」と振り返る。

【北京、台北共同】12日開幕したアジア太平洋経済協力会議（APEC）のオンライン首脳会議では、環太平洋連携協定（TPP）への加盟申請を行った中国、台湾が市場開放を強調するなど、支持を訴えた。TPP加盟の11国はAPECにも加盟。中台にとつては格好のアピールの場となったが、TPP加盟国間には中台に対する支持に温度差があり、加盟交渉は難航が必至だ。

中 市場開放を強調 台



帯一路の推進を強調した。TPP加盟の開発途上国に存在感を示すことで「中国寄り」の国を増やし、台湾と日本などとの連携強化を阻止する狙いもありそうだ。熊本県での工場建設を表明した世界的な半導体大手、台湾積体電路製造（TSMC）を創業した張忠謀氏は13日、台湾総統府で記者会見し、APEC首脳会議の場でTPP加盟への支持を求めたと表明した。「台湾は世界のサプライチェーン中国をけん制した。」

新規就農に1千万円

農水省 49歳以下 支援策刷新

農林水産省が2022年度に、将来の農業の担い手となる49歳以下の新規就農者を育成する支援策を刷新することが13日分かった。機械やトラックなど初期投資の負担を減らすため、最大1千万円を一括支援するほか、就農者を指導する農業法人などへの助成期間を従来の最長2年から5年に延ばす。農業者が減少する中、就農者の経営の安定化や長期定着を後押しする。1千万円は日本政策金融公庫が無利子融資し、償還金を国と地方自治体が負担する方向だ。

Table comparing 'New support strategy' (new national and local government share) and 'Traditional support strategy' (national government full responsibility). It details support amounts for 1-3 years and 4-5 years, and maximum support for 2 and 5 years.

新たな就農支援策 最大1千万円の一括支援を受け取るには、生産する作物の面積や数量、将来の農業経営の構想を「青年等就農計画」に取りまとめ、市町村から認定を受ける必要がある。親元で就農する場合は、5年以内の親の経営を継承、発展させるなどの条件が加わる。1千万円は日本政策金融公庫が無利子融資し、償還金を国と地方自治体が折半して全額支援する方向だ。